

## 声かけのコツ～子どもが理解しやすい声かけ～

### (1) お子さんの注意をしっかりとひいてから声をかける

例えば、名前を呼ぶ場面で考えてみましょう。

- ・ 周りの不必要な音（テレビなど）を消して呼ぶ
- ・ 子どもの目の前に行って呼ぶ
- ・ 子どもの肩をたたいて呼ぶ
- ・ 大きな声で、長く、歌うように呼ぶ（例：あ～ゆむくん）



### (2) 目に見える手がかりを使う

#### ① 実物や写真を見せる

例えば・・・

「靴はいてね」 ⇒  + 「靴はいてね」

「車で買い物に行くよ」 ⇒  + 「車で買い物に行くよ」

「公園に行くよ」 ⇒  + 「公園に行くよ」

※公園の写真を携帯で撮っておいて、行く前に見せて伝える。

#### ② 身振りや見本を見せる

例えば・・・

「ゴミ箱に捨てて」 ⇒  + 「ゴミ箱に捨てて」

### (3) 言葉を選んで声をかける

### ①肯定的な表現で

お子さんがどんな行動をすればいいのかわかるように肯定的な表現で声をかけましょう。

例えば・・・

「部屋の中を走り回らない」 → 「椅子に座って」  
「大きい声でしゃべらない」 → 「小さい声でしゃべる」  
「飲み物をこぼさない」 → 「ストローでのもうね」



練習してみましょう

「おもちゃをちらかさない」 → 「 」

### ②具体的に

あいまいな表現は、お子さんが理解できないことがあります。具体的に声をかけましょう。

例えば・・・

「きちんと片付けて」 → 「オモチャを箱の中に入れて」  
「あっちに置いて」 → 「テーブルの上に置いて」  
「そこに座って」 → 「この椅子に座って」



練習してみましょう

「ちゃんと挨拶しなさい」 → 「 」  
「しっかり食べて」 → 「 」

### ③短く

長すぎると、どのような行動をとるべきかお子さんが理解できないことがあります。短く分かりやすい声かけをしましょう。

例えば・・・

「あーもう早く靴はいてよ、急ぐんだから」 → 「靴はいてね」  
「使わないオモチャはすぐに箱に片付けなさいっていつも言ってるでしょう、いい加減にしてよ」 → 「オモチャを箱に片付けようね」



練習してみましょう

「裸でウロウロしないで服着てよ。風邪ひいたらどうするの。何回も同じこと言わせないでよね。もう知らない」  
→ 「 」

※声をかけすぎないように、見守ることも大切です。